

下田総合庁舎 定例記者懇談会資料

令和5年3月24日

賀茂地域局

次回の定例記者懇談会
令和5年4月25日（火）
午前9時30分から
会場：賀茂キャンパス

目 次

◎重要施策発表

賀茂地域住民アンケート調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	(賀茂地域局地域課)

◎4月の行事予定

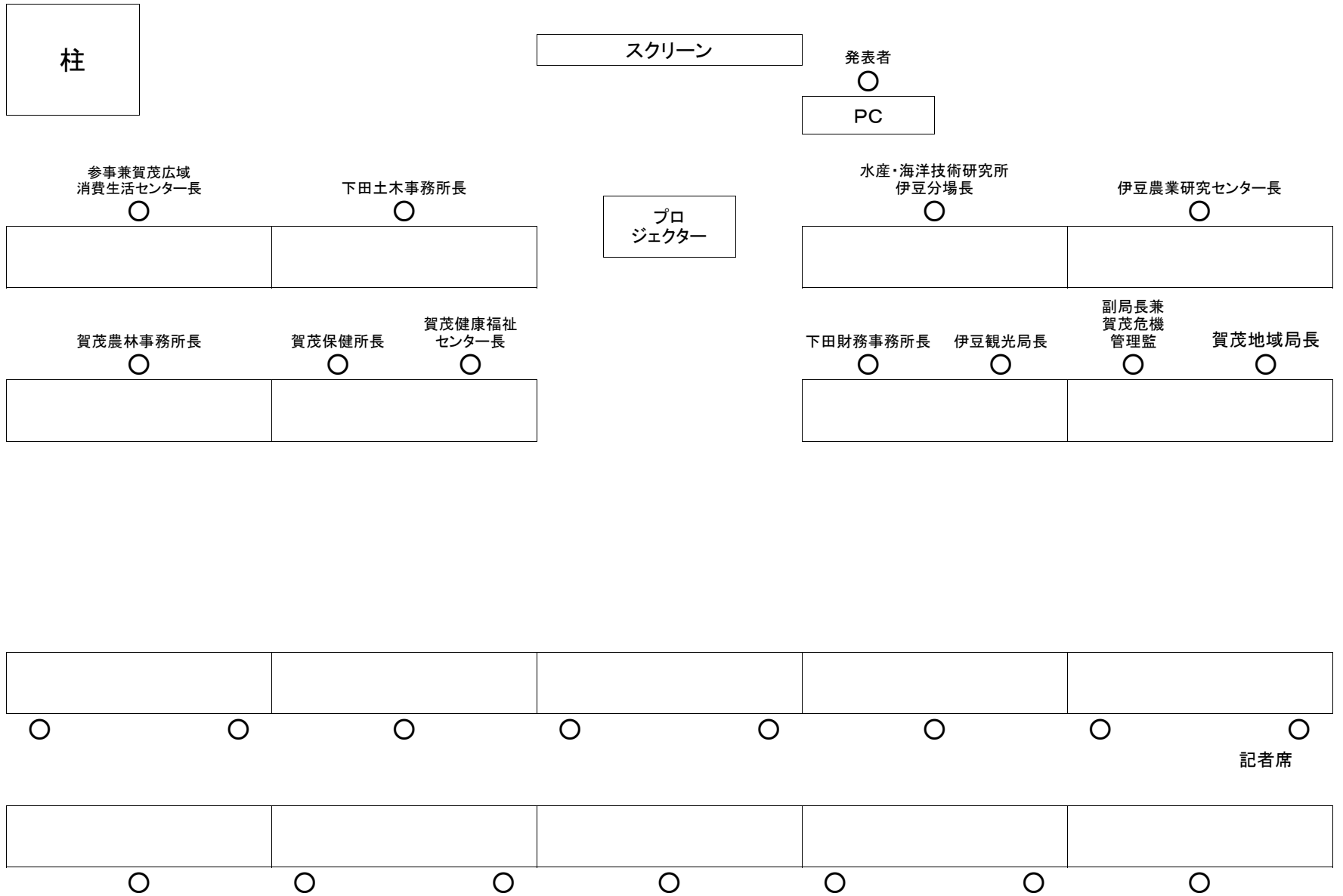
行事予定表・・・・・・・・・・・・・・・・	12
賀茂キャンパス活用プログラム	
「静岡県立大学 社会人講座」第26回講座・・・・・・・・	14
	(賀茂地域局地域課)
防災講座の開催・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	(賀茂地域局危機管理課)
伊豆・富士山歴史絵巻ガイドマップ完成・・・・・・・・	17
	(伊豆観光局)

名簿

	役職名	氏 名
1	賀茂地域局長	やまね まきつぐ 山根 正嗣
2	賀茂地域局副局長兼賀茂危機管理監	ぬまの かつし 沼野 克史
3	東部地域局伊豆観光局長	やながわ のりゆき 柳川 典之
4	下田財務事務所長	はらだ なおあき 原田 直彰
5	賀茂健康福祉センター所長	たなか ひさし 田中 尚
6	賀茂健康福祉センター医監兼賀茂保健所長	ほんま よしゆき 本間 善之
7	賀茂農林事務所長	やぶざき たけひこ 藪崎 武彦
8	農林技術研究所伊豆農業研究センター長	たねいし もとひろ 種石 始弘
9	水産・海洋技術研究所伊豆分場長	すずき もとお 鈴木 基生
10	下田土木事務所長	とつか ひろふみ 戸塚 博文
11	賀茂広域消費生活センター所長	まつなが としの 松永 俊乃
12	賀茂地域教育振興センター参事	つちや かずみ 土屋 一巳
13	賀茂地域局次長兼地域課長	あおき かつひろ 青木 克裕
14	賀茂地域局参事兼危機管理課長	すずき かなめ 鈴木 要

賀茂地域定例記者懇談会 座席表

(下田総合庁舎別館 2階 賀茂キャンパス)



出入口

令和5年3月24日(金)
賀茂地域定例記者懇談会 重要施策発表

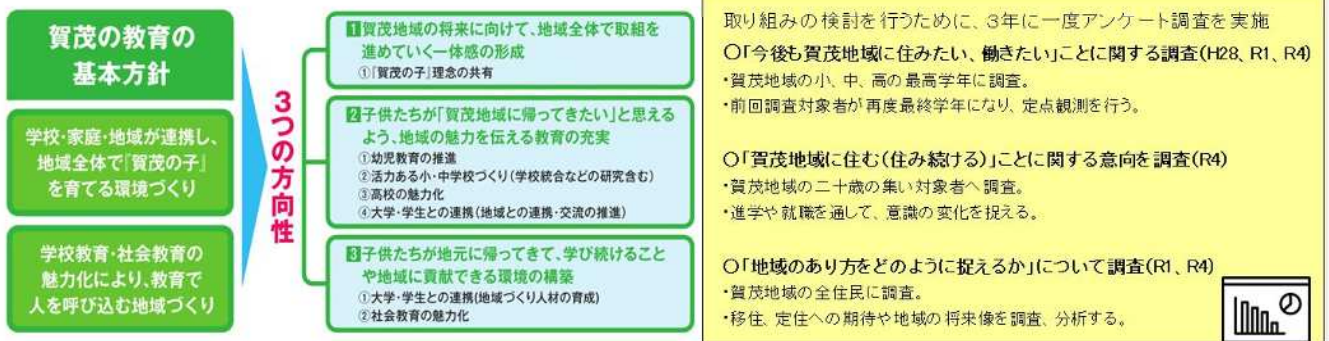
賀茂地域住民アンケート調査結果

静岡県賀茂地域局

賀茂地域住民アンケート調査結果について説明いたします。

これまでの「賀茂の子」を育てる地域づくり

「賀茂の子」とは、『賀茂は一つ』の想いもと、ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献できる人」



・賀茂地域局では、「賀茂地域教育振興方針」に基づき、各市町と連携して、「賀茂の教育」の基本理念:『賀茂の子』を育てる取り組みを実施している。

・H30.12.18に静岡大学・静岡県立大学・静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町の相互連携協定を締結。

○目的: 互いの人的・知的資源等を活用して多様な分野で連携し、相互の発展並びに地域社会の持続的な発展、人材育成に寄与。

- 連携事項: (1)人づくり、人材交流の活性化、「賀茂の子」を育てる環境づくり
 (2)まちづくり、地域振興
 (3)観光をはじめとした地域産業の活性化
 (4)人口減少などによって生じる諸課題
 (5)その他必要であると認めること

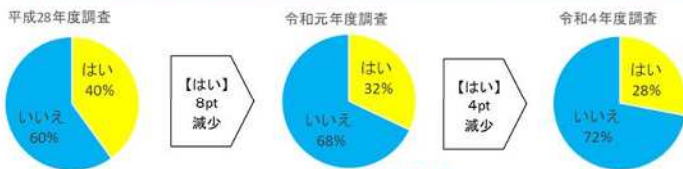
・連携や交流に向けて、活動拠点となる「賀茂キャンパス」を整備。
 総合庁舎だけではなく、賀茂地域全体が「賀茂キャンパス」と捉え、フィールドワークの聖地を目指す。
 ※具体的な事業については、後ほど説明します。

・「賀茂の子」を育てる取り組みの検討を行うために、
3年に一度アンケート調査を実施。幅広い世代を対象に調査を実施し、賀茂地域が新たな価値の創造・生き方のできる場所となり得る方法を検討する。

若者世代の意識はどう変化した？ —児童・生徒意識調査の結果—

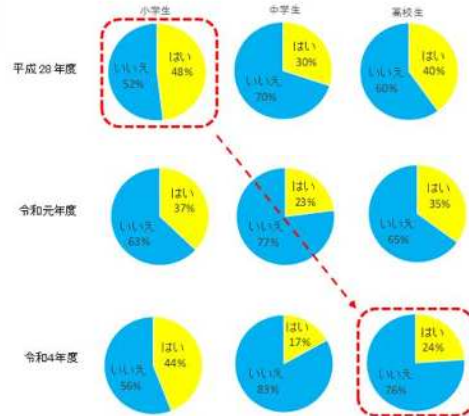
ポイント 「賀茂地域の将来像」策定（H28）からの意識変化を見るため、調査を実施
結果：「住んでいきたい」が、3期連続上昇。特に、小6⇒中3への進級で上昇

15年後に賀茂地域に住んでいきたいか？（単一回答）



H28調査開始時点から
【はい】8pt 減少
【いいえ】4pt 減少
12ポイント上昇

R4 【はい】の理由	割合	R4 【いいえ】の理由	割合
安心感・地域愛	39%	不便な田舎	36%
豊かな自然	23%	外の世界への憧れ	30%
家族や友人	15%	仕事や夢	25%
地元で働く	10%	地元への不安	4%
その他	13%	その他	5%



中学校時に大きな心境の変化が!?

対象 賀茂地域（1市5町）の19小学校、8中学校、4高校のそれぞれ最終学年の児童・生徒 ※回答数=1,027人

・学生アンケート概要

対象者：賀茂地域（1市5町）の19小学校、8中学校、3高校（分校含む）のそれぞれ最高学年の児童・生徒

実施期間：令和4年9月1日～9月15日

調査対象者数：1,085人 調査回答数：1,027人（94.7%）

調査方法：各学校にアンケートを配布・回収

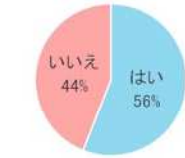
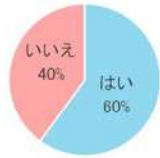
【ポイント】

- ・平成28年度より開始し、当時小学6年生だった児童が、本年度高校3年生となった。調査開始から3期連続で「15年後に賀茂地域に住んでいきたい」の割合が上昇している。
- ・経年比較をすると、小学6年生から中学3年生にかけて上昇する傾向がある。「中学校時に大きな心境の変化があるのでは」と伺える。

子供や孫に地元に住み続けてほしいか 一住民意識調査の結果一

ポイント 結果：「たくさんの人に地元に住んでほしい」と回答した方が83%だが、「自分の子や孫に住んでほしい」と回答した方は60%となり、乖離している。

R4将来的にたくさんの人に
地元に住んでほしいか
R4あなたの子や孫に
将来的に地元に住んでほしいか
【参考】R1あなたの子や孫に
将来的に地元に住んでほしいか



「子や孫がいる」と回答した方(795人)の内訳

☆地域のために、多くの人に住んでほしいと考える人が多いが、自分の子供や孫には外で活躍してほしいという思いが表れている。

「はい」の理由	割合	「いいえ」の理由	割合
地域の暮らしを未来に繋げるため	55%	若者が活躍できる場所がない	60%
豊かな自然など魅力が多い	26%	地元はしがらみが多い	13%
地元の歴史・文化を残したい	6%	地震・津波がくる	6%
住んでいる人の気質が良い	6%	その他	21%
その他	7%		

「R4あなたの子や孫に将来的に地元に住んでほしいか」より

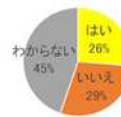
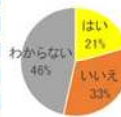
対象

賀茂地域(1市5町)の全住民
※回答数=1,021人

☆「賀茂地域に魅力を感じている」と回答した方は全体の61%

将来、出身地、賀茂地域内で生活したい、生活し続けたいと考えていますか(現在の住まい別に集計)

全体(170人) 賀茂地域内(58人) 賀茂地域外の県内(38人) 県外(74人)



「はい」の理由	割合	「いいえ」の理由	割合
地元愛	46%	就職先	32%
家族や友人	23%	娯楽が少ない	14%
地元で働く	11%	日常生活が不便	14%
豊かな自然	15%	結婚・子育ての不安	9%
静かで住みやすい	6%	住宅環境	9%

上位5つまでを抜粋

☆地元の魅力を感じているが、定住には難色を示している。

対象

賀茂地域の二十歳の集い対象者
※回答数=169人

・住民アンケート概要

対象者：賀茂地域(1市5町)の全住民

実施期間：令和4年12月1日～12月28日

調査回答数：1,021人

調査方法：学校、商工会等を経由し、アンケートを配布・回収

・二十歳の若者アンケート概要

対象者：賀茂地域(1市5町)の二十歳の集い対象者

実施期間：令和4年10月1日～令和5年1月10日

調査回答数：169人

調査方法：WEBアンケートにて実施。チラシの郵送やLINEでの周知。




二十歳の集い当日に周知活動を実施(西伊豆町を除く)。

【ポイント】

・住民アンケートでは、「たくさんの人に地元に住んでほしい」と回答した方が83%に対し、「自分の子や孫に住んでほしい」と回答した方は60%と乖離した結果となった。

・二十歳の若者アンケートでは、「賀茂地域に魅力を感じている」と回答した方は61%いるのに対し、「将来、賀茂地域に住んでいたい」と回答した方は全体の21%にすぎない結果となった。

令和4年度賀茂地域住民アンケート調査事業

	学生アンケート	二十歳の若者アンケート	住民アンケート
対象者	賀茂地域の 小6・中3・高3の児童・生徒	賀茂地域の 二十歳の集い対象者	賀茂地域の全住民
回答者数	1,027人	169人	1,021人
生活	28% 「15年後に住んでいたい」と 回答した割合	21% 「将来、生活したい(続けたい)」と 回答した割合	56% ※分母は「子や孫がいると回答した方765人の内 「子や孫に将来的に住んでほしい」と 回答した割合
理由	「不便な田舎」と答えた方が最も 多く、次に「外の世界への憧れ」 	「就職先」と答えた方が最も多く 次に「日常生活が不便」 	「この地域には若者が活躍できる場が ない」と答えた方が最も多い 
仕事	56% 「将来やりたい仕事賀茂地域に ある」と回答した割合	—	67% 「子や孫について欲しい仕事は賀茂地域 にある」と回答した割合
地域の 魅力	90% 「賀茂地域が好き」と回答した割合	61% 「魅力を感じている」と回答した割合	「豊かな自然」と答えた方が最も多い

- ・簡単に各アンケートの概要とポイントをお伝えしたが、それぞれ比較した結果がこちら。

児童・生徒は、住んでいる地域より豊かな都会への進出。

二十歳の若者は、生活に必要な仕事や環境の充実。

地域住民(回答者のほとんどが大人)は、仕事のみならず、「やりがい」や「地域貢献」など幅広い目線で将来を考えている。

- ・各世代ごとの定住意識の把握と住民ニーズの調査を行った。賀茂地域局での「賀茂の子」を育てる取り組みは調査結果をもとに事業の企画・実施をしている。次頁からは、前回調査結果を踏まえて実施した事業を紹介。

「賀茂地域で輝く大人」紹介事業「賀茂のカリスマ」(カモスマ)

RI 賀茂地域住民アンケートより

働く場所がない
活躍できる場がない

この地域での
様々な仕事、活躍できる場
を住民がよく知らない？

賀茂地域で

- ・自分のやりたい仕事をいきいきとしている
- ・地域の資源を生かした仕事をしている
- ・地域に魅力を感じ、地域にこだわって活躍している人たちを



賀茂のカリスマ
(カモスマ)

として地元住民へ紹介

紹介した職種は、
一次産業者やサービス業など多岐にわたる
皆、自分の仕事に誇りとやりがいを持っている。



内容

- 新聞記事の掲載(R2.8~10)
 - ・12人を紹介。冊子として県HPに公開中
- 映像コンテンツの配信
 - ・10人各7分程度の動画で紹介
 - ・県YouTubeチャンネル
 - ・管内ケーブルテレビ



YouTube
再生リスト

・令和元年度調査結果から、「地元で働く場所がない」や「やりたい仕事がない」、
「若者が活躍できる場所がない」など仕事に関する意見が多く挙げられた。

・地元の仕事に着目し、これまで関わりのなかった分野の仕事について理解を深めるとともに、将来の定住希望に繋げることを目的としている。

事業内容

(1) 地域住民を対象とした施策

「地域で輝く賀茂のカリスマ『カモスマ!』」

この地域ならではの仕事や、自分のやりたい仕事、地域で活躍している人など業種はこだわらず、賀茂地域で働く大人を取材。

活用方法: 伊豆新聞下田版紙面にて掲載。地元ケーブルテレビで映像を放送。

県公式YouTubeチャンネルにて配信。

(2) 学生を対象とした施策

「LIVE! カモスマ」

学生アンケートで人気が高かった職種において賀茂地域で活躍している方を取材。

活用方法: DVD映像を管内各高校など関係各所に配布し、進路指導等で活用。

県公式YouTubeチャンネルにて配信。

賀茂キャンパスの活用 ①大学交流拠点

- ・賀茂地域全体をキャンパスと捉え、フィールドワークの場に
- ・下田総合庁舎の賀茂キャンパスは、地域全体の活動拠点
- ・来訪する大学生が地域の児童生徒・住民と交流する機会を創出

○社会人向けの講座



「観光人材育成のための社会人講座」(県大)
令和2年10月から毎月開催

活動実績(抜粋)

○学生の感性を活用



「伊豆の踊子散策マップ」(文芸大)
(一社)河津町観光協会と連携し、令和3年2月に作成

○フィールドワーク



「未来を切り拓くDream授業・賀茂版」
大学生と中学生と一緒に
下田市の恵比須島でフィールドワーク

「若旅IN賀茂キャン」(大学生)

大学生による地域交流、
地域の魅力発見の機会
創出に向けた学生向けツアー
(オンラインとリアル)の2種類
令和2年度から実施



南伊豆での経験を知ってもらえたかなと思います。

○地域体験

○静岡大学×和歌山大学フォーラム



テーマ
「半島地域における交流・
協働の拠点づくりを考える」

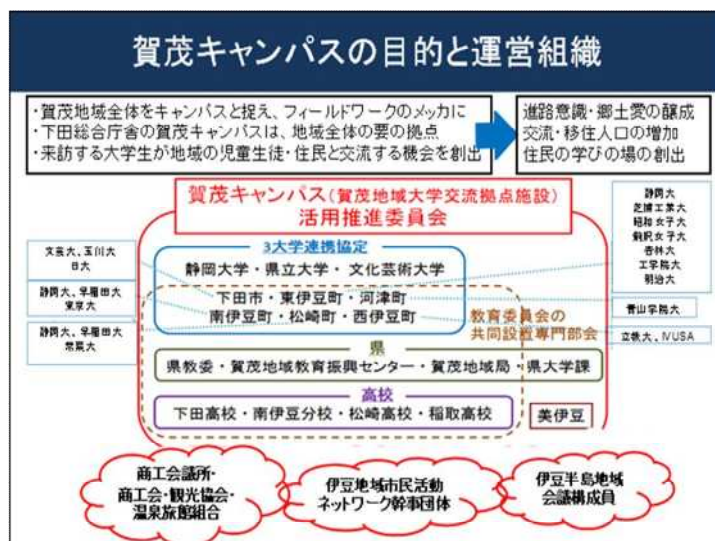
静岡大学及び和歌山大学による
活動報告及び
パネルディスカッションを実施

・賀茂地域全体を大きなキャンパスと捉えてもらい、フィールドワークなどで賀茂地域を訪れてもらい、大学生と地域の児童・生徒が交流

・地域の子どものたちの進路意識や郷土愛を醸成、訪れた大学生が賀茂地域の素晴らしさを感じることで交流人口や移住者増加を目的としている

・賀茂地域を訪れる大学生と地域の児童・生徒が交流する機会を創出する象徴的な拠点として総合庁舎内に「賀茂キャンパス」を整備

・拠点を整備すると同時にその運用調整等を行う「賀茂キャンパス活用推進委員会」を設置。委員会では、大学・市町教育委員会、管内県立高校、県の関係機関等で構成。個々の取組について情報共有を共有し、連携した取組を実施。



賀茂キャンパスの活用 ②賀茂の子づくり

- ・ふるさとに誇りと愛着を持ち、地域の発展に貢献できる「賀茂の子」を育む
- ・地域の魅力を再発見し、地域に対する愛着や誇りを高め、進路形成意識を醸成する

活動実績(抜粋)

○未来を切り拓くDream授業・賀茂版



賀茂地域1市5町の教育委員会と連携
賀茂地域にゆかりのある講師による講義

○アカデミックスクール



高校生と大学生が講義やフィールドワークを通じて
地域の魅力を再発見する(県大)

○高校生のための観光講座



高校生向けに観光をテーマとした
出前講座を開催(県大)

○下田市の今後の観光業についての意見交換会

賀茂地域の高校生が、
1年間観光について学び、
感じた課題感や思いを
賀茂地域に住む若者の意見
として行政や関係団体へ報告



○大学・高校交流



「しずおか寺子屋IN賀茂」

賀茂地域の小中学生に高校生・
大学生と一緒に学習支援をする
とともに、高校生と大学生が交流

いくつか具体的な事業を紹介

・未来を切り拓くDream授業・賀茂版

目的: 中高生や大学生と地域住民の交流する機会を設けることで
地域の新たな気づきにつなげる

参加者: 管内中学生24人、静岡県立大学生4人

内容:

- (1) 賀茂地域で活躍している大人による講義
- (2) 実技 フラワーアート、つけもの石deカーリング
- (3) フィールドワーク 室岩洞(松崎町)、恵比須島(下田市)

・しずおか寺子屋IN賀茂

目的: 大学生が身近にいない地元高校生が大学生と交流することで
進路意識の醸成や地元の魅力を再認識。

参加者: 管内小中学生約100人、静岡県立下田高校生21人、静岡大学生9人

内容:

- (1) 小中学生の学習支援
- (2) 大学生と高校生の交流
- (3) 静岡大学教授によるプレゼミ

これからの取組について

【現状と課題】「賀茂地域教育振興方針」で定めている目標値に対して、達成度は約3割程度となっている。

目標指標	目標値 (令和元年度)	実績値 (令和元年度)	実績値 (令和4年度)
中学校卒業時に「将来、賀茂地域に帰ってきたい」と思う子どもの割合	50%	23%	17%

【今後の方向性】 **今後の地域の在り方について、必要な施策の検討を実施**

- ・幼、小、中、高校間の連携強化
 - ・高校の魅力化の推進
 - ・地域づくり分野と連携した「地域の魅力発信」と「教育」
- 市町間、校種間における更なる連携
- 地元の仕事に着目した「カモスマ」や交流拠点である「賀茂キャンパス」を活用
出身地に対する帰属意識の形成を促す

・「賀茂の子」づくりの取組は端的に言ってしまうと、「帰属意識の形成」

・今後の方向性としては、調査結果を踏まえて、

- (1) 市町間や校種間における更なる連携
- (2) 「賀茂のカリスマ」(かもすま)や「賀茂キャンパス事業」を引き続き活用し、地域住民や学生のニーズに沿った事業の実施を検討します。

本年度調査結果の周知について

アンケート調査報告会の開催

日時: 令和5年3月10日(金)

場所: 賀茂キャンパス

対象者: 県民



報告書の作成

静岡県HPにて報告書を公開。

関係機関への配布。

3月中に
公開



・本日説明した「賀茂地域住民アンケート調査結果」について、令和5年3月10日(金)に県民向けの報告会を実施した。

・調査結果をまとめた報告書について、静岡県ホームページに公開すると共に、関係機関へ配布を行う予定。

現在、取りまとめ中のため、3月中には公開を予定しています。公開した際には周知広報等に御協力お願いいたします。

ご清聴ありがとうございました

終わり

以上で発表を終わります。
ご清聴いただきありがとうございました。

行事予定表（令和5年4月分）

日	曜日	賀茂地域局	下田財務事務所	賀茂健康福祉センター	賀茂農林事務所	下田土木事務所
1	土					
2	日					
3	月					
4	火					
5	水					
6	木					
7	金					
8	土					
9	日					
10	月					
11	火					
12	水					
13	木					
14	金					
15	土					
16	日					
17	月	防災講座（下田高校） 14:50～15:35 下田高校				
18	火					
19	水					
20	木					
21	金	賀茂キャンパス活用プログラム 「静岡県立大学 社会人講座」 第26回講座 13:30～15:00 賀茂キャンパス				
22	土					
23	日					
24	月					
25	火	定例記者懇談会 9:30～ 賀茂キャンパス				
26	水					
27	木					
28	金					
29	土					
30	日					

行事予定表（令和5年4月分）

日	曜日	農林技術研究所 伊豆農業研究センター	水産・海洋技術研究所 伊豆分場	賀茂広域 消費生活センター	賀茂地域 教育振興センター	伊豆観光局
1	土					
2	日					
3	月					
4	火					
5	水					
6	木					
7	金					
8	土					
9	日					
10	月					
11	火					
12	水					
13	木					
14	金					
15	土					
16	日					
17	月			13:30～14:00 特別法律相談		
18	火					
19	水					
20	木					
21	金					
22	土					
23	日					
24	月					
25	火					
26	水					
27	木					
28	金					
29	土					
30	日					

令和5年3月24日

定例記者懇談会資料

賀茂キャンパス活用プログラム「静岡県立大学 社会人講座」第26回講座


(賀茂地域局)

(要旨)

「静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学と賀茂地域1市5町の相互連携に関する協定」に基づき、賀茂キャンパスにおいて、静岡県立大学による「観光人材育成のための社会人講座」の第26回講座を令和5年4月21日(金)に実施する。

※参加費は無料、毎月1回開講予定(単発の参加可)

(概要)

日時	第26回 令和5年4月21日(金) 13:30~15:00 ※毎月1回継続実施
会場	静岡県下田総合庁舎別館2階 賀茂キャンパス ※別館1階玄関からお入りください。 ※駐車場台数に限りがあるため、公共交通機関の利用・車の乗り合わせに協力願います。
内容	講師：静岡県立大学大学院 八木 健祥 経営情報イノベーション研究科長 兼ツーリズム研究センター長 『人はなぜ温泉に行くのか(その1)』
対象	県民(定員48人)
参加費	無料
申込	 QRコードからの申込、もしくは、 静岡県立大学ツーリズム研究センターのメール：trc@u-shizuoka-ken.ac.jp、 又はFAX：054-264-5476に氏名、所属、電話番号を記入の上お申込みください。 ※定員に達した場合は、参加をお断りすることがあります。
問合せ先	賀茂地域局地域課 電話：0558-24-2204 主催：静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科附属ツーリズム研究センター 共催：静岡県賀茂地域局

※新型コロナウイルス感染症対策(3密の防止、出席者のマスク着用、検温、手指消毒等)に十分留意した上で実施します。

※当日受付にて検温を実施しますが、37.5度以上の発熱があった場合は出席をお控え願います。

※感染拡大の状況によっては、開催を延期又は中止とする場合があります。

担当：賀茂地域局地域課

連絡先：0558-24-2204

賀茂キャンパス 観光人材育成のための 社会人講座

主催：静岡県立大学ツーリズム研究センター

協賛：静岡県賀茂キャンパス活用推進委員会

2023年 第26回

4月21日(金) 13:30~15:00

静岡県下田総合庁舎内賀茂キャンパス(下田市中531-1)

人はなぜ温泉に行くのか(その1)

講師：八木 健祥

静岡県立大学経営情報学部教授

1981年4月 日本銀行入行

2008年6月 日本銀行静岡支店次長

2019年4月 静岡県立大学教授

2020年4月 静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科
ツーリズム研究センター長

【専門分野】観光政策、交通経済論

【講話要旨】

日本人が温泉を大好きなのは今に始まったことではありません。では、温泉に出掛ける目的は何でしょうか。かねてより「温泉=湯治」と考えられてきましたが、最近では温泉に求めるニーズにも変化が窺われます。そこで今回は改めて首都圏在住者2,500名を対象にアンケート調査を行い、温泉ニーズを確認するとともに、温泉の満足度の基準をどこに求めるのかについて解説させていただきます。あわせて、首都圏在住者2,500名が選ぶ全国温泉ランキングも発表したいと考えています。なお、2023年度は「温泉シリーズ」の講話を今回を皮切りに計3回予定しています。



働きながら学べる最新の観光情報。無料で参加できます。

メール、FAXもしくはQRコード
からお申込みください。

静岡県立大学大学院経営情報イノベーション研究科付属
ツーリズム研究センター

Mail: trc@u-shizuoka-ken.ac.jp

FAX : 054-264-5476



防災講座の開催

(賀茂地域局 危機管理課)

(目的)

賀茂地域局危機管理課では、防災における「自助・共助・公助」の基本を踏まえた地域防災力強化のため、自主防災組織、教育機関、ボランティア組織等、地域の防災を担う組織と連携して、防災講座や連絡会議等の開催、訓練・研修等を実施している。

(概要)

実施日時	実施場所	実施対象	内容等	備考
4月17日(月) 14:50~15:35	下田高校(下田市)	1・2年生	未定	

(計 1回)

・ **新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、中止又は延期の可能性がります。**

(お願い)

学校での防災講座を取材する際には、各学校まで取材を行う旨をご連絡くださいますようお願いいたします。

講座の内容については、変更になる場合があります。

講座の内容に関するお問合せは下記担当までお願いいたします。

担当：危機管理課 森（連絡先：0558-24-2004）

提供日 2023/3/24
タイトル 伊豆・富士山歴史絵巻ガイドマップ完成
担当 静岡県東部地域局
連絡先 地域課 堤 TEL 055-920-2139



～源頼朝・北条氏から始まる武士の歴史の舞台を巡る～ 伊豆・富士山歴史絵巻ガイドマップ完成

県では、市町、観光協会、商工関係団体等の83団体で構成する「ぶしのくに静岡県 伊豆・富士山周遊促進連絡協議会」と連携し、「ぶしのくに静岡県」をコンセプトに大河ドラマ「鎌倉殿の13人」のレガシーを活かしつつ、「どうする家康」の放送も踏まえて、武家社会の成立から終焉までの伊豆・富士山地域に残る歴史・文化資源を活用した誘客や広域周遊の促進に取り組んでいます。

この事業の一環として、このたび令和3年度に制作した伊豆・富士山歴史絵巻ガイドブックを、源頼朝・北条氏ゆかりの地のほか、徳川家康関連の史跡や幕末までの歴史資源等を掲載したものにリニューアルしました。

ガイドマップは伊豆・富士山地域の市町、観光協会、道の駅などで配架するほか特設ウェブサイト「ぶしのくに静岡県」HPでも公開します。

1 名称

伊豆・富士山歴史絵巻ガイドマップ



2 仕様

カラー、A2（二つ折り+観音折り）

3 内容

- 伊豆・富士山地域の武家社会成立から終焉までのゆかりの史跡紹介
- 観光名所や史跡を巡りながら食も楽しむ「伊豆・富士山地域周遊モデルコース」ほか<史跡（一部抜粋）>



4 配架先及び公開先

県機関、県東部地域の市町・観光協会・商工会議所・商工会、道の駅 ほか
伊豆・富士山歴史絵巻ガイドマップ リンク⇒<https://bushinokuni-shizuoka.jp/1910/>

5 問合せ先

静岡県東部地域局地域課 電話 055-920-2139

ぶしのくに静岡県ホームページ ⇒
(<https://bushinokuni-shizuoka.jp/>)



Culture City of East Asia 2023 SHIZUOKA

東アジア文化都市2023 静岡県